ある日のこと、私のクリニックのホームページにヒットしたらしく、この書籍の製作者である山中氏から、熱烈なオファーの連絡が届いたことから始まりました。彼は、「左利きの歯科医師」と検索して、私のことを知ってこの書籍の「あとがき」を依頼されました。全くの面識もなく、その書籍のことも知らない私には、この書籍の存在意義すら理解できていませんでした。書籍のタイトルが「左利きの女」？　私は、「左利きの男」であり関係ないけど……。と思いながらも彼の熱烈なメッセージを受けて、これも何かのご縁と感じて「あとがき」の依頼を受けることにしました。

「右利きの彼」が「左利きの女」というタイトルで書籍を発行し、「左利きの人」に興味を抱く姿勢が私には理解できていません。なぜなら、私は「左利きの人」であり、右利きの世界で順応し、適応して生きているから。「右利きの人」に興味を持ったこともないし、これからもないことは確かなことでしょう。

それだけに、「左利き」に注目したこの書籍には、興味を感じることもありませんでした。しかし、読んでみると「左利きの人」特有の苦労や「右利き社会」からの区別など様々な経験をし、工夫して生きている姿に共感しました。

そして、「左利きの歯科衛生士」という方の特集記事で、学生時代の左利きの苦悩にも私の経験と重なる部分もあり、同じ「左利きの医療人」として彼女も様々な工夫をして頑張っていることと感じました。私は、歯科学生時代には、「左利き」であることで教官に直すように指摘されることも、不利と感じることもありませんでした。なぜなら、学生時代においては、患者さんに直接触れることは少なく、マネキンや模型を使った実習が多く、困ることはありませんでした。

そこから一転し、歯科医師になってからの勤務先で「右利きの歯科医師院長」の指導の元で修行をしていた時に洗礼を受けたのが初めてでした。私が、左手で患者さんの歯を削り、通常の右利きの診療位置とは真逆の位置で治療をしていると……。「歯医者の機械は右利き用にできているのだから右手を使って治療をしなさい！　右利きになりなさい！」と叱責されたことが、私が「左利きの歯科医師」であり、「左利きの人」であることを強く自覚させられた一日であり、強い苦痛を感じたことは今でも忘れられません。

その右利きの院長からすれば、私の歯科医師としての将来を考えてくれて言ってくれたことであると今では大変感謝しています。そして、そこから私の「左利きの歯科医師」人生は、左利きの利点もあると信じて「両利きの歯科医師」を目指すことの修行が始まりました。

日々、右手で治療ができるように訓練し、指導してくれる院長の目を掻い潜りながら大事なポイントでは左手で細かい修正をし「左利きの視点」を大切にして修行時代を過ごしていました。いつしか、右手での治療も可能になり「両利き」という技を手に入れることができました。そして、その勤務医時代に「器用である」「歯科医師」を目指すことの修行が始まりました。を削る形成が上手だ」と言われるようになっていました。

そこに、「左利き」だからと言われることはなく、ただ単に上手だと言われるだけで、私の「右利きの姿勢や思考」を「左利きの姿勢や思考」に変換していることには触れられることもなく、気づかれることもない、そんな「左利き」の苦労は自分だけの知る世界であり、「右利き」の世界で生きている自分がお邪魔させてもらっている感があること。そんな感情になることもきっと「左利きの人」にしかわからないことなのでしょう。

私たち「左利きの人」は、好んで「左利き」として生まれたわけでもなく、幼少期には、「左利き」を直すようなトレーニングという拷問が各家庭で始まり、それを経験します。そして、大人になってからも「右利き社会」で生活する中で様々な窮屈を経験します。居酒屋に行けば、箸が右向きに置いてあり、それを左向きに直す。ラーメン屋のカウンターでは、右利きの方が隣にいると気を使って左肘が当たらないように小さくなってラーメンをする。

そのような経験を過ごしているためか？　よく「左利きの人」は寿命が短いと言われます。私たち「左利きの人」には、左右から見ることのできる視点と思考が育ち、知恵が育まれ、日々工夫することが習慣化されていますので、短命で終わることのないよう工夫して生きれる「左利きの人」として人生を楽しめたらと思います。

最後に、この「左利きの歯科衛生士」まよさんも、きっと私と同じく、「左利きの人」として不便を感じる時もありますが、決して「左利き」である自分を嫌ったり「左利き」で生まれたことを恨んだりすることはありません。それよりも手に入れることのできる世界が2倍あることを、楽しむことができることに、幸福に感じていること思います。「左利き」の個性に注目して頂けたことと、改めて「左利き」の自分を見つめ直す良いきっかけと、このご縁を頂戴したことに感謝致します。

2025年10月22日　伊藤 玲

プロフィール

伊藤 玲（いとう あきら）
歯科医師
東京都調布市
あきら歯科　院長

左利きの歯科医師。1999年より、生まれ育った調布市京王線柴崎駅前にて歯科医院を開業。日々の治療の傍ら、海外歯科医療ボランティアチーム「NPO Japan Dental Mission」や海外チームに所属し、開発途上国や難民キャンプなどで歯科診療支援、国内での難民歯科診療支援を行っている。

web：www.akira-dental.com
Instagram：@akira_dental_clinic.chofu